

第3回検討会 委員意見振り返り

■ (仮称) 新九段生涯学習館のめざす姿

<めざす姿案①、案①'について>	
A委員	● 施設が九段にあることを分かりやすくするため、めざす姿か、施設の名称のいずれかに「九段」を含めることが望ましい。
委員長	● 前回は「九段」で意見がまとまっていたが、今回「千代田」案が出されたのは、地域を限定しない表現との比較のためと理解している。ただ、「千代田」という行政区を用いると、住民のみを対象とする印象を与えかねず、区外からも来てつながっていくという人の動きを制限してしまう可能性がある。一方、「九段」を基点としてすることで、「ここから始まる」「つながる」「未来へ」といった広がりを示すことができ、地域を限定しない表現として適している。
C委員	● 「千代田区」というと特定のイメージが強い印象だが、「九段」はそれぞれの人が持つ思いやイメージがあり、むしろ広がりがあるのでないかと思う。
D委員	● 「千代田」に変更する必要性は感じられず、他施設との差別化の観点からも「九段生涯学習館」は九段にあることを明確に示すべきである。多様な人が利用できる施設であることを伝えるには、「千代田から」よりも「九段から」とした方が適切である。

■ (仮称) 新九段生涯学習館の基本方針

<基本方針について>	
A委員	● B案の「世代を超えて知がつながる」は、知識や座学のイメージが強く、運動など幅広い学びを含みにくい印象がある。
B委員	● A案について、日本の中心である千代田区から文化を発信することを前面に打ち出し、歴史を「世代を超えて」つなぐという流れが適切だと感じる。
C委員	● A案の「学びが息づく場」という表現がシンプルで良い。継承ではなく、時代を超えてみんなで一緒に進むイメージがあり、その場で同時に学び合う新しい言葉として魅力的だと思う。
A委員	● A案の「学びが息づく」というのはいい言葉である。
D委員	● A案が分かりやすく良いと思う。「学びが息づく」という表現が魅力的である。
B委員	● A案の冒頭に「千代田の」を加え、「千代田の歴史と文化に根ざし、世代を超えて学びが息づく場をつくります」とする案も考えられる。

■ (仮称) 新九段生涯学習館の機能と規模

＜各機能と規模について＞	
会議室・集会室に関する意見	
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ● 30名規模でグループワークをすると、一番大きい部屋でも手狭である。 ● 楽器を使う団体が多目的室や音楽室、レクリエーション室を取れない場合に大会議室を使い、音漏れするケースがあった。また、座学系の講座ではマイクを使うため音漏れが懸念される。
和室に関する意見	
D委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 茶道利用を考えると、各部屋に床の間と水場があるのが望ましい。 ● 和室は、ヨガなど靴を脱ぐ運動系団体と利用が重なり、場所が取れないことがある。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ● 40m²2部屋の場合は、部屋を連結できる仕様にすると、大きな団体が利用する際に、仕切りを外して広く使えるため便利だと考える。
D委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 部屋を連結できる仕様にすると、風情が失われ、簡易な施設のようになってしまう懸念がある。新施設では、ただ畳を敷くだけでなく、床の間や違い棚など和室らしい要素を残してほしい。 ● 音が出る活動は、部屋が離れていれば問題ないが、隣で舞台や楽器演奏をする団体があるとパーテーションでは防音が不十分。
実習室に関する意見	
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習室・作業室は、稼働率が低いが、縮小されるのか。
運動・音楽室に関する意見	
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 天井高や広さを確保できると今のレクリエーション室ではできないスポーツもできるようになり、汎用性が広がるのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きな舞台付きの部屋は、音楽だけでなく演劇や芝居での活用も想定できる。
ギャラリーに関する意見	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 人の目にとまる、人の動きがあるところに展示を設置するにあたっては、展示スペースをしっかり確保する必要がある。面積の確保が不十分だと、いろいろなものを展示できなくなることが懸念される。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模サークルは部屋を埋められるが、小規模サークルだと部屋を埋められないため、使用頻度が低くなることから、ギャラリー統合の発想が出ていると思う。ただし、全体としては一定の展示スペースを確保すべきだと考える。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 稼働率が高くないため、未使用時には運動系や座学系にも使える多目的スペースにできるなら、ある程度の広さを確保してもよい。ただし、ギャラリー専用では稼働率の低さが課題になる。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 稼働率が低いのは、一部のサークルしか利用していないためだと思う。サークル数は多いので、年1回の発表の場として全サークルに利用を促せ

	ば活用が進むと考える。小規模なサークルは複数まとめて、それぞれにブースを設けるなどの工夫も可能ではないか。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> 年1回など定期的に利用してもらっても、稼働率はレクホールなどに比べて低くなる。必要な機能はあるが、使っていない時間帯を有効活用できる代替案がないと、難しいのではないかと感じる。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> 美術関係の企画で子どもたちが集まっていたこともあり、こうした企画ができる場であれば良いと感じる。
D委員	<ul style="list-style-type: none"> ご提案は、120 m³のスペースを交流エリア兼ギャラリーとし、ギャラリー未使用時にはオープンスペースとして活用するという内容だと理解している。使い方は焦点の当て方によって変わるが、さまざまなサークルに利用してほしい。ただ、使うだけでなく、来館者の目に触れることが重要であり、そのためにエントランスの交流スペースと一体化させる提案だと受け止めている。イベント会場としての活用も良いと思う。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> あまり小さくしてしまうと、大きい団体が困ると思う。120 m³程度のスペースを確保しつつ、交流スペースと一体化する案自体には賛成である。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> カフェスペースに展示物を組み合わせることで、展示を楽しみながら過ごせる場となり、カフェ自体の価値も高まると思う。展示に合わせてカフェの配置を工夫すれば、展示がより引き立ち、心地よく楽しめる空間になると考えられる。
オープンな活動空間	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> オープンスペースについて、利用者に応じて時間帯を分けるなどの工夫は可能だと思う。最近はアクティブラーニングの機会が増えており、学びのスペースへの需要がある。また、異なる人たちが同じ場所を使うことで、ルールやマナーを学ぶことにもつながるため、排除する必要はないと考える。
その他の意見	
C委員	<ul style="list-style-type: none"> 狭くてもよいので、ベビーベッド付きの授乳室のような個室が必要だと感じる。利用者にはお子さんを同伴する若い世代もいるため、その点を考慮する必要がある。 気持ちを落ち着けられる小さな個室は、災害時などにも障害のある方にとて助かる場となる。幅広い利用者にとって使いやすくなると考える。